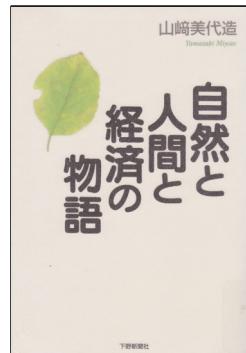


総記

この分類には、県内の図書館に関する資料や県内の大学・研究機関などが発行する資料、ジャーナリズムに関する資料などが含まれます。

ここでは、栃木県の様々な事柄について総合的に書かれた資料や県内大学・研究機関が発行した紀要、新聞の連載記事をまとめた資料をご紹介します。

1 昭和から平成の栃木県の出来事を、行政に携わった著者の視点で描く



『自然と人間と経済の物語』

山崎美代造／著

下野新聞社

2006(平成 18 年)

348p 20cm

※絶版もしくは重版未定

本書は、著者の山崎氏が、これまでに新聞や機関紙、雑誌などに掲載された文章を「自然」、「人間」、「経済」のテーマ別に編集し、まとめたものである。

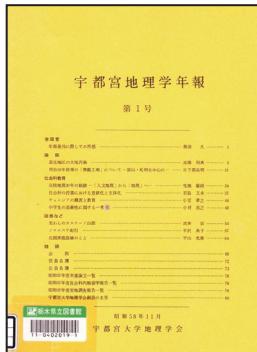
全国植樹祭や栃木県青年の船、企業再生など、著者が関わった栃木県内の出来事を詳細に知ることができるとともに、少子化問題や中小企業経営などに対する著者の考えも示されている。

著者は、県の林務部長や産業振興センター会長などを務め、本書のほか『地域づくりと人間発達の経済学』(御茶の水書房 2004) や『足利銀行一時国有化と企業再生の軌跡』(下野新聞社 2015) などの著作がある。

貸出

【請求記号 : T049/31】

2 栃木県における地理学・地誌学研究の記録



『宇都宮地理学年報』

宇都宮大学地理学会／編

宇都宮大学地理学会

1983～1995(昭和 58 年～平成 7 年)

26cm

※絶版もしくは重版未定

宇都宮大学地理学会の機関誌として、1983 年(昭和 58 年)に創刊。13 号まで刊行された。

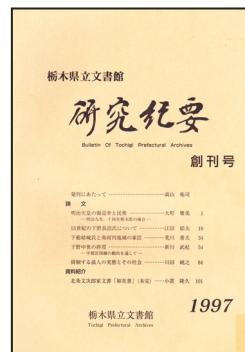
本学会は、栃木県の地理的性格を踏まえた事象研究を行うため、県域の地理研究に関する相互啓発の場として組織された。第 1 号巻頭言「年報発刊に際しての所感」で、栃木県の地理的位置として、「北関東の中央」、「内陸県」、「東北日本の南」、「日本の先進地域の縁辺」の 4 つの特徴が挙げられている。これを踏まえ、交通・土地利用・信仰・産業など、本県の地理学・地誌学や地理教育について多岐にわたる研究論文が収録されている。

当館のレファレンスでは、「栃木県の雷様」(第 2 号) や「古峯神社の信仰圈について」(第 5 号) など、広範囲に活躍する資料である。

レファレンス

【請求記号 : T050/53】

3 栃木県の歴史研究を支える紀要



『栃木県立文書館

研究紀要』

栃木県立文書館／編

栃木県立文書館

1997～(平成 9 年～)

30cm

職員の資質向上、研究論文の発表や資料紹介などを通して、歴史資料の保存・利用に大きく寄与することを目的に、栃木県立文書館開館 10 周年である 1997 年(平成 9 年)の創刊号から、2015 年(平成 27 年)の 19 号まで刊行されている。

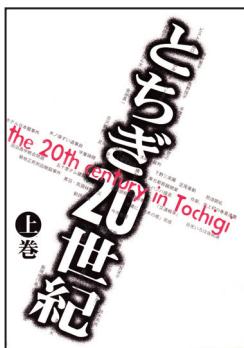
掲載されている内容は、中世から近現代の歴史論文や史料紹介、公文書の利用・保存に関するものが中心である。

文書館職員ばかりでなく高等学校・大学教員による論文もあり、その名前を当館で所蔵している地域資料の著者として見ることも多い。本県の歴史研究の動向を追うにあたり欠かせない資料の一つである。

レファレンス

【請求記号 : T050/55】

4 栃木県の20世紀を振り返る下野新聞の連載記事を書籍化



『とちぎ20世紀』

(上巻・下巻)

下野新聞「とちぎ20世紀」

取材班／編

下野新聞社

2000～2001(平成12年～平成13年)

22cm

※絶版もしくは重版未定

1999年(平成11年)1月から2000年(平成12年)12月までに下野新聞紙上で全100回にわたって連載された記事をまとめたもの。人物編、事象編に分け、20世紀に県内で起きた大きな出来事と本県出身者の業績について、記者の丹念な取材のもとに執筆されている。

地元に密着した新聞社ならではの取材力と貴重な写真資料で、それぞれの事象や人物の本質に迫っており、一件一件が読み応えのある記録である。また同時に、100件の記事がまとまるこことによって、本県の20世紀を知る風俗史資料としても優れた記録集となっている。

巻末の年表では、県内の出来事を国内外の主な出来事とともに列挙しており、当時の世相の中での栃木の動きを感じることができる。

貸出

【請求記号:T070/23】

哲学

この分類には、哲学、心理学、宗教に関する資料が含まれます。ここでは、寺社に関する資料が貸出回数、レファレンス事例での使用回数いずれの条件でも選ばれました。

5 栃木県の神社について調べるための基本資料



『栃木県神社誌

神乃森 人の道』

(本巻・別巻)

栃木県神社庁／編

栃木県神社庁

2006(平成18年)

27cm

※絶版もしくは重版未定

1964年(昭和39年)刊行の『栃木県神社誌』を受けて新たに2冊組で編さんされた。

本巻の主要部分にあたる「第三編 栃木県神社名鑑」では、地域別の五十音順に県内の神社が配列され、神社名・俗名・神紋・所在地・主祭神・例祭・由緒沿革などを一覧できる。「第四編 祭礼と神道文化」では、神社縁起や民俗行事、神話・人物にまつわる県内各地の口碑・伝承などを広く収録。巻末には、附録として「宮司名簿(支部別)」、「栃木県神社市町村別一覧(神社名・御祭神名・宮司名・責任役員名)」が掲載されている。

なお、別巻には「神社祭祀芸能暦」、「栃木県神社関係文化財目録(国・県・市町村指定別)」、「神社所在地図(市町村別)」が収録されている。

レファレンス

【請求記号:T170/4】

6 下野国一の宮の一つにまつわる 長い歴史を紐解く神社史



『宇都宮二荒山神社誌』

(通史編・資料編)

雨宮義人／著、宇都宮二荒山神社／編

宇都宮二荒山神社

1988～1990(昭和 63 年～平成 2 年)

22cm

※絶版もしくは重版未定

宇都宮市中心部に位置する宇都宮二荒山神社が、遷座 1150 年を記念して編さん・出版した神社史。その成り立ちから現在までの歴史を記述した通史編と、参考資料を復刻した資料編の 2 冊からなる。

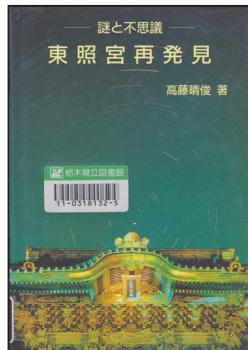
通史編では、度重なる火災や戊辰戦争・第二次世界大戦などの戦火を経て、今もなお県民のシンボルとして愛され続けている二荒山神社のこれまでを、豊富な資料を活用して描いている。また、資料編は『栃木県史』や『宇都宮市史』に掲載されていない資料を選んで翻刻されており、地域史研究において広く活用されているところである。

なお、栃木県が誇るもう一つの一の宮である日光二荒山神社について、当館では『二荒山神社』(二荒山神社社務所／著、発行 1917) や社殿等の修理工事報告書を所蔵している。

レファレンス

【請求記号 : T171/23】

8 日光東照宮の研究書・案内書・写真集 を兼ねる万能な一冊



『東照宮再発見

謎と不思議』

高藤晴俊／著

栃木新聞社

1990(平成 2 年)

223p 19cm

※絶版もしくは重版未定

1988 年(昭和 63 年)1 月から 1 年間栃木新聞(現在は休刊)に連載された「東照宮再発見」に 50 項目を増補して単行本化した資料。

本編は「建造物」、「彫刻・絵画」、「歴史・由緒」の 3 部からなる。各部内に複数の項目が設けられており、見開きページで一項目を説明している。

見開きページは、左側が解説文、右側がカラー写真の構成で統一されており、各項目 600 字程度で解説されている。難読漢字にはルビが振られているため内容を理解しやすい。

巻末には付録編として、著者の講演の記録である「東照宮は平和の象徴」や「東照宮関係略年表」、「東照宮境内略図」などを掲載している。

貸 出

【請求記号 : T172/65】

7 東照宮 300 年祭を記念して社務所が 編さんした歴史書



『東照宮史』

別格官幣社東照宮社務所／編

別格官幣社東照宮社務所

1927(昭和 2 年)

5, 424, 84p 23cm

※絶版もしくは重版未定

1915 年(大正 4 年)の東照宮 300 年祭に際して、東照宮社務所が宮の歴史を編さんした資料。活字で読むことができる東照宮の通史として、400 年祭を迎えた現在においても重用される。

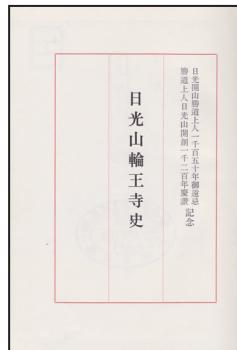
本編では祭神である家康公の業績にはじまり、造営、祭儀から明治大正期の沿革まで、宮の歴史を網羅的にまとめている。宮と密接な関係にある寺社、輪王寺関係も含めて日光関係の江戸期の役職について記した「制度」の章、66 郷 18 万石とされる日光山の領地について記した「神領」の章なども設けられている。

巻末の東照宮史関係書目では、江戸期刊行の史料を、「東照公」、「鎮座」、「造営」、「祭儀」、「神忌」、「社参」、「社記」、「分祀」、「寺記」、「山志」、「紀行」に分類・収録している。

レファレンス

※館内利用のみ 【請求記号 : T172/12】

9 勝道上人からはじまる輪王寺の歴史を たどる資料



『日光山輪王寺史』

日光山史編纂室／編

日光山輪王寺門跡教化部

1967(昭和 42 年)

633, 3p 22cm

※絶版もしくは重版未定

勝道上人の 1150 年忌と日光山開山 1200 年を記念して刊行された。

「日光山輪王寺史」と「史料篇」の 2 部で構成されている。「日光山輪王寺史」は、開山から本書発行時までの輪王寺の歴史を説明した「序説」、開祖である勝道上人の生涯を記した「勝道上人傳」、輪王寺歴代の座主、別当、門跡の生没年や功績を記した「列祖傳」で構成されている。

「史料篇」は、弘法大師空海が記した『沙門勝道歷山水宝玄珠碑并序』(しゃもんしょうどうさんすいをへてげんじゅをみがくひならびにじょ) をはじめ、輪王寺の歴史に関する文献を収録している。

なお、日光山輪王寺が所有する本書の閲覧を希望する場合は、事前に確認が必要である。

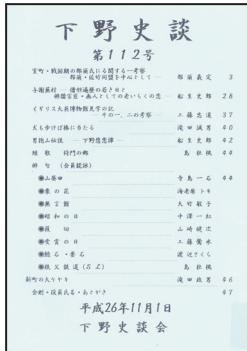
レファレンス

※館内利用のみ 【請求記号 : T182/5】

歴史

この分類には、歴史や伝記、地理に関する資料が含まれます。ここでは、栃木県の歴史や地理、歴史上にゆかりのある人物に関する資料を紹介します。

11 県内では随一の歴史を持つ本県郷土史の研究紀要



『下野史談』

下野史談会

1919～(大正8年～)

下野史談会は、栃木県における郷土史研究の先駆者である田代善吉氏が中心となって発足し、その機関誌である本誌の創刊は大正期までさかのぼる。通号では300号近く、そして1957年(昭和32年)から始まる第2期のみでも110号越えて発行されており、非常に長い歴史と伝統を誇る。現在では、年に1～2回の頻度で発行されている。

毎号、県内の歴史研究に加え、俳句・短歌なども掲載されており、栃木県の文化を広く支えている。第2期の111号では、2014年に開催された“蒲生君平没後200年祭”について取り上げ、記念講演やシンポジウムについて、当日の資料を交えて紹介している。

貸出

※未所蔵または館内利用の卷号あり
【請求記号 : T205/1】

10

徳川光圀・蒲生君平・藤貞幹・青柳種信を考察した講演会の記録



『近世の好古家たち

光圀・君平・貞幹・種信』

国学院大學研究開発推進機構

日本文化研究所／編

雄山閣

2008(平成20年)

246p 22cm

国学院大学日本文化研究所が、近世の社会や学問の研究を重ねる中で行った講演会、公開シンポジウム及び座談会をまとめた資料。学芸員や大学教授などが講師を務め、近世考古学に関する考察・意見交換を行っている。

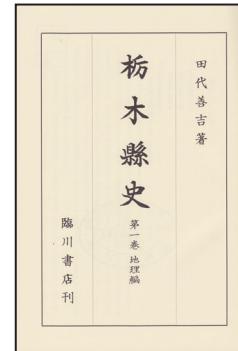
資料の中核である講演会では、4名の研究者が、近世好古家を1名ずつ取り上げて業績を考察している。『大日本史』編さんや古墳の調査・保護事業で名を残す、水戸藩主・徳川光圀。宇都宮藩の山陵補修で著名な蒲生君平は、「前方後円墳」という用語を始めて使用した人物である。藤(藤原)貞幹は、町人学者として「考古学中興の祖」と評された人物、青柳種信は本居宣長に入門し、『後漢金印考』などを著した国学者である。

貸出

【請求記号 : T202/260】

12

個人編さん・出版による全17巻の県史 大正期に計画、昭和8～17年に刊行



『栃木縣史』

(全17巻)

田代善吉／著

下野史談会

1933～1942(昭和8年～昭和17年)

22cm

※絶版もしくは重版未定

郷土史家で中学校教諭であった田代善吉氏(号は「黒龍」)が企画、調査、執筆、出版と全ての編さん業務を独力で行い、自費で出版した県史。当時の発行は、予約販売による300部と稀少な資料である。当館では、原本の他に、1972年(昭和47年)に臨川書店から発行された復刻版も所蔵している。

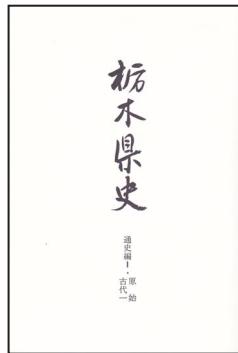
内容は、「地理編」、「交通編」、「神社編」、「寺院編」、「政治編」、「教育編」、「古城址編」、「戦争編」、「産業編」、「産業・経済編」、「史跡名勝編」、「考古編」、「伝記編」、「文化編」、「市町編」、「皇族編・系図編」、「墳墓編・総索引」の全17巻。復刻版では解説が付与され、各巻の簡単な解題のほか、田代氏の生涯についても記されている。栃木県の郷土史研究における重要な基礎資料の一つである。

※原本は館内利用のみ。復刻版は貸出可。

レファレンス

【請求記号 : T209/2/2】

13 栃木県のはじまりから現代までを網羅する歴史書



『栃木県史』
(全 33 卷)
栃木県史編さん委員会／編
栃木県
1973～1984(昭和 48 年～昭和 59 年)
22cm
※絶版もしくは重版未定

栃木県域の古代から近現代に至る歴史を調べる際の、最も基本的な資料。約 10 年をかけて通史編 8 卷、資料編 2 卷、史料編 23 卷の全 33 卷が刊行された。

通史編は、「原始古代」、「中世」、「近世」、「近現代」の 4 つに区分され、主要な出来事、人物、支配体制や各種の制度などを網羅的に解説している。資料編は考古の 2 卷のみで、地形や地質、先土器時代から古墳時代までの概観、主な遺跡を収載。史料編は通史編と同じ時代区分で、県域の歴史を知る上で重要な各種文書類などを翻刻して収録している。

通史編に掲載された史料で、史料編にも収録されているものについては、史料編の収録巻とページが記載されており、史料全体を参照しやすい構成となっている。

貸 出

【請求記号 : T209/24】

15 豊富な図表とともに視覚的に通覧する栃木県史



『図説栃木県の歴史
図説日本の歴史 9』
阿部昭／共編
河出書房新社
1993(平成 5 年)
256, 48p 27cm

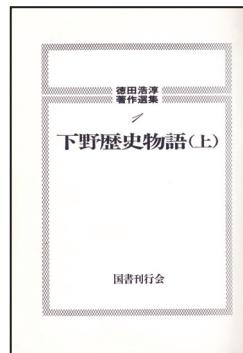
「図説日本の歴史」シリーズの本県版。阿部昭氏をはじめとする県内の人文学科分野の研究者 26 名からなる執筆陣によって編まれた。図説と銘打たれているように、写真図版のほかに、各種の分布図、グラフ、系図など、本文の理解を助けるための図表が豊富に盛り込まれており、視覚的に栃木県の歴史を捉えることができる。

卷頭では、カラー図版が多数掲載されているほか、巻末には索引・年表、「国・県指定文化財一覧」、「祭りと行事一覧」などがまとめられるなど、付録が充実している。

貸 出

【請求記号 : T209/44】

14 郷土史家徳田浩淳氏の新聞連載や随筆をまとめた 6 冊の選集



『徳田浩淳著作選集』
(全 6 卷)
徳田浩淳／著
国書刊行会
1983(昭和 58 年)
22cm
※絶版もしくは重版未定

1～3 卷は『下野歴史物語』。1971 年(昭和 46 年)9 月から 1979 年(昭和 54 年)10 月までの栃木新聞の連載記事を整理・修正し、まとめたもの。平安時代から明治時代初期における本県ゆかりの人物の伝記を収録している。

4 卷『下野の歴史散歩』は、過去に新聞や雑誌、ラジオで発表した、社寺の由来や遺跡紹介、歴史研究に関する随筆・論文などが、それぞれ 2～4 ページでまとめられている。

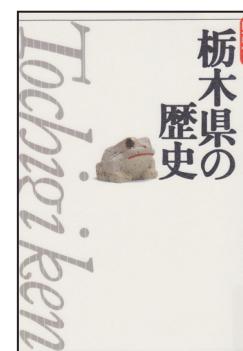
5 卷『下野の古文書解説』は、著者が解説した中世・近世の文書のうち、190 点の影印(原史料の写真)、翻刻(活字化したもの)及び当該文書の解説を掲載している。

6 卷『下野の領地と村名』は、江戸時代の村別の石高(米の生産力)と支配状況をまとめた資料。村名は、出版当時の市町村区分を基準に配列している。

レファレンス

【請求記号 : T209/33】

16 通読できるコンパクトな県史の決定版



『栃木県の歴史 県史 9』
阿部昭／〔ほか〕著
山川出版社
1998(平成 10 年)
337, 47p 20cm
※絶版もしくは重版未定

古代から現代までを網羅する「県史」シリーズの本県版。郷土史研究分野の一線で活躍されている阿部昭氏、橋本澄朗氏、千田孝明氏、大嶽浩良氏の 4 名によって執筆されている。

あとがきによると、本書の旧版は『栃木県史』(☆13)が編さん中の 1974 年(昭和 49 年)に刊行され、郷土史ブームの火付け役となったとのことである。平成になってから刊行されたこの新版は、その後の各自治体史の編さん事業の成果を盛り込み、新しい視点で編まれたものである。

巻末の付録が充実しており、索引・年表のほか、沿革表、1～12 月の祭礼・行事の紹介などがまとめられている。

2011 年(平成 23 年)に、第 2 版が刊行されている。

貸 出

【請求記号 : T209/48】

17 東国の戦国合戦史を総合的に捉えた一冊



『東国の戦国合戦
戦争の日本史 10』
市村高男／著
吉川弘文館
2009(平成 21 年)
316, 4p 20cm

日本史における戦争・内乱を取り挙げ、原因・過程・被害・結果を通して、人間にとっての戦争は何であるかを考える「戦争の日本史」シリーズ（全 23 卷）の一冊。著者の市村高男氏は、『戦国期東国の都市と権力』（思文閣出版 1994）など、戦国時代についての研究書を数多く上梓している。

本書は、関東 8 か国を中心に、歴史上密接な関係にある甲斐・伊豆、南奥・奥州も必要に応じて収録対象としている。また、戦国の始期については、15 世紀末から 16 世紀初頭、終期については、豊臣秀吉が小田原の北条氏を滅ぼした 1590 年（天正 18 年）までと捉えている。この分野の各論は多数発表されているが、広く東国全体の戦国合戦史を扱い、全体像を描き出す試みとして貴重である。

貸 出

【請求記号 : T209. 4/66】

19 江戸時代の栃木県の地域振興や文化の発展に関する事例がまとめられた資料



『人づくり風土記 全国の
伝承・江戸時代 聞き書き
による知恵シリーズ 9』
加藤秀俊／〔ほか〕編纂
農山漁村文化協会
1989(平成元年)
372p 27cm

江戸時代に日本全国各地で進められた様々な地域づくり・人づくりの事例を、都道府県別にまとめたシリーズの本県版。用水の開拓、災害助け合い、産業の振興と継承、地域の教育システム、地域の発展に尽力した人物などを紹介し、この時代に形作られ、現代に受け継がれる風土や伝統、民俗行事などを知ることができる。地図・文献・図表が豊富で、漢字のルビや用語の説明も充実している。また、それぞれに執筆者が明記されている。

資料編には「病と治療 医療制度と薬種政策」、「栃木の江戸時代年表」、「江戸時代栃木の物産地図」及び「江戸時代栃木の文献資料」を収録。「江戸時代栃木の文献資料」には、江戸時代の歴史を知るための主要史料の説明がある。

レファレンス

【請求記号 : T209. 5/58】

18 14 名による下野の中世史研究を集約した論文集



『中世下野の権力と社会
中世東国論 3』
荒川善夫／編, 佐藤博信／編,
松本一夫／編
岩田書院
2009(平成 21 年)
456p 22cm
※絶版もしくは重版未定

「中世東国論」シリーズの中で、下野に焦点を当てた巻。「関東足利氏とその周辺」「下野の地域権力とその周辺」の 2 テーマで構成されている。

「戦国時代東国社会の様相」（荒川善夫／著）、「戦国期の関東足利氏に関する考察」（佐藤博信／著）など 14 名による 13 件の論文を掲載している。

巻末の「下野中世史関係文献目録」（松本一夫／編）では、戦後から 2008 年までに発表された主要な資料を刊行年順にリスト化している。栃木県（下野）の中世について調べる際に役立つ情報である。

貸 出

【請求記号 : T209. 4/68】

20 豊富な写真で今も残る戦跡を辿る



『下野の戊辰戦争』
大嶽浩良／著
下野新聞社
2004(平成 16 年)
125p 26cm
※絶版もしくは重版未定

本書は戊辰戦争にスポットを当て、「梁田の戦い」から「片府田・佐良土の戦い」まで、栃木県内で起こった戦闘の様子を、現在も残る戦跡の様子を交えながら解説している。

各地の戦いを日付、場所ごとに分類し、各章には戦闘の解説、戦地図、現在の戦跡周辺の写真を掲載している。とりわけ、戦地図には両軍の動きや指揮官の所在、交戦地に至るまで詳細に書き込まれている。当館では、戊辰戦争に関する図書を多く所蔵しているが、本書は当時の様子を理解するための補助資料としても活用できる。

著者の大嶽浩良氏は『とちぎメディカルヒストリー』（獨協出版会 2013）や『下野の明治維新』（下野新聞社 2014）といった幕末以降の県内の歴史に関する図書を出版している。

貸 出

【請求記号 : T209. 6/14】